

2015年9月9日

報道関係各位

一般社団法人日本能率協会
ドイツメッセ日本代表部

世界最大の B to B 向け産業技術の専門展示会

HANNOVER MESSE



2016年4月25日（月）～29日（金）独・ハノーバーで開催

最新の産業技術・製品が一堂に会する世界最大のB to B専門展示会「HANNOVER MESSE（ハノーバーメッセ）」は、次回、2016年4月25日（月）～29日（金）に、ドイツ・ハノーバー国際見本市会場で開催されます。この展示会は、約100カ国・地域から5,000社以上が出展し、製造業・エネルギー産業などから20万人が来場する規模を誇っています。会期中は、1,000以上のフォーラム（技術会議）が開催され、同分野での最新情報の宝庫となっています。

メインテーマは「**Integrated Industry（産業システムの統合化）**」。

日本の製造業にとってデジタル化が重要な戦略課題になっているように、今世界の産業界では「Industry 4.0」に象徴されるデジタル化によるものづくりの再構築へ向けた試みが始まっています。

今年4月の開催に続き、次回ハノーバーメッセでもデジタル化技術は注目されており、100件以上のIndustry 4.0の応用例が展示紹介されます。併設の講演会やフォーラムなどでも、各スピーカにより現状分析や将来の展望が語られる予定です。

また、こうした技術は、製造業の枠に留まらず世界のエネルギー関連産業にとっても活用が期待されています。ハノーバーメッセでは、世界のエネルギーシステムを持続性あるものにするためのスマートグリッド技術が多数展示紹介されます。

主要テーマ・注目のキーワード

- ◆ Industrial Automation & IT（産業オートメーション&IT）
- ◆ Energy & Environmental Engineering（エネルギー・環境工学）
- ◆ Industrial Subcontracting & Production Engineering
（下請生産・生産技術）
- ◆ Research & Development（研究・開発）



HANNOVER MESSE 2015 会場（2015.04）

主催は、ドイツ・ハノーバーを本拠地に世界各地で専門展示会を開催するドイツメッセ株式会社。日本能率協会は、2015年4月より、同社の日本におけるセールスパートナーとして、ハノーバーメッセの日本企業の出展・来場誘致を行っています。

【本件に関するお問い合わせ】 一般社団法人日本能率協会 担当：竹生（たけお）、高間（たかま）

〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22

TEL：03-3434-6447 / FAX：03-3434-8076 / E-Mail：DMS@jma.or.jp

※取材のお問い合わせは、広報室（TEL：03-3434-8620、担当：斎藤）へお願いいたします

HANNOVER MESSE 2016

ハノーバーメッセ（国際産業技術見本市）開催概要

会 期：2016年4月25日（月）～29日（金） 各日9:00～18:00

会 場：ハノーバー国際見本市会場（Messegelände, 30521 Hannover, Germany）

主催・運営：ドイツメッセ株式会社（Deutsche Messe AG）

所在地：Messegelände, 30521 Hannover, Germany Tel：+49(0)5 11/89-0

E-mail：info@messe.de ホームページ：www.messe.de

パートナーカントリー：アメリカ合衆国

展示内容：※会場マップは別紙ご参照

Industrial Automation（8、9、11、12、14～17ホール）

Energy（11～13、27ホール、FG）

Digital Factory（6、7、8ホール）

Industrial Supply（4～6ホール）

Research & Technology（2、3ホール）

出展料金：2,898.80ユーロ/9㎡～（9月15日までの申込で1㎡あたり7ユーロ引き）

入場料金：1日券（Day Ticket） 前売り28.00ユーロ 当日窓口35.00ユーロ

通し券（Season Ticket） 前売り64.00ユーロ 当日窓口76.00ユーロ

※学生など1日入場券：15.00ユーロ

※「Tec2You」（採用イベント／4月29日開催）のみ有効の入場券：3.00ユーロ

※前売り券の購入（ユーロ）は、ハノーバーメッセホームページ

（www.hannovermesse.de/tickets）まで

また日本円での1日券・通し券は、2月下旬よりドイツメッセ日本代表部入場券購入ページ
（http://www.jma.or.jp/dms/ticket_form/）にて販売予定

※宿泊の予約は、ハノーバー観光局ホームページ（www.visit-hannover.com）まで

2015年実績

HANNOVER MESSE 2015

会期：2015年4月13日（月）～17日（金）

会場：ドイツ・ハノーバー国際見本市会場

■来場者：約200,000人

－3割がドイツ国外からの来場

－68%が意思決定者

－世界から2,500人報道陣が取材

■出展者：5,000社以上（約100カ国・地域）

－商談件数：550万件

－日本からの出展：58社（海外現地法人含）

浅野、アネスト岩田、新井工業、アルテミスインテリジェントパワー、NCネットワーク、エバオン、荏原製作所、エプコス、オイレス工業、オムロン、鹿島化学金属、川崎重工業、キーエンス、キメラ、キンセイ産業、サクラテック、山洋電気、JMC、CC-Link協会、スギノマシン、住友重機械工業、セイコーエプソン、CHAdEMO協議会、タイカ、高石工業、THK、TDK、寺崎電気産業、東亜鍛冶所、東海アツミテクノ、東西サムテル、東芝三菱電機産業システム、中野鍛造所、奈良精工、パナソニック、日産自動車、日本電気、日本ベアリング、日立製作所、平井工業、ファナック、フジクラ、富士通、不二ラテックス、松定プレジジョン、三菱電機、三菱日立パワーシステムズ、三ツ星ベルト、ミヤキ、矢崎化工、安川電機、油研工業、ユニパルス、横河電機、横浜ゴム、菱電商事、Ryosho Europe、ルネサスエレクトロニクス

参考資料①

世界をリードする国際産業技術専門展示会ハノーバーメッセから見る 日本および世界の産業の将来像

ドイツメッセ株式会社 ハノーバーメッセ担当上級副社長
マルク ジーマリング

日本の製造業にとってデジタル化は最優先の戦略課題となっている。日本ならびにヨーロッパやアメリカの製造業は今、ネットワークの構築や高度な情報の共有を進めている。世界の製造業の分野では、日本製の機械・設備はハイテクで品質が高いと考えられており、日本企業が「Industry 4.0」に象徴される第4次産業革命にとっても重要な役割を担うものと期待している。

日本では少子高齢化による人口の減少やそれに伴う技術者不足が懸念されているが、これらに対応すべく、政府主導で成長戦略を描き、産業の自動化・統合化を進めている。

ハノーバーメッセでは、数年来メインテーマに「Integrated Industry（産業システムの統合化）」を掲げており、日本の産業界が進もうとしている方向と一致している。そういった意味でも、日本企業がハノーバーメッセに参加することは大変意義のあることだと思う。

製造業をメインに進められているインテリジェント化やデジタル化は、この分野に限ったことではなく、世界のエネルギーシステムを持続性のあるものにするためにも重要な役割を果たすと考えている。すなわち、電力供給と通信技術を融合させた「スマートグリッド（次世代送電網）」の開発だ。スマートグリッドは年々技術が向上しており、近い将来にはエネルギー・サプライチェーン全体を自律して管理・統合するようになるだろう。

日本は、2030年までに電源構成における再生可能エネルギーを現在の約2倍となる22～24%にすると同時に、天然ガス、石炭、原子力など従来のエネルギー源を構成要素として保持するという方針を決めた。より複雑化するエネルギーミックスの技術分野についても、ハノーバーメッセでは数多く展示紹介されている。日本のエネルギー産業関係者にとっても、ハノーバーメッセが有益な場になると確信している。

また、日本企業にとって見逃せないのは、次回ハノーバーメッセ2016のパートナーカントリー・アメリカ合衆国が注目するロボット技術だ。

アメリカ合衆国の製造業部門は効率を上げるためにロボット技術への投資を増加させており、事実、同国のロボットの発注は前年より30%伸びている。中小企業の安定した需要の増加もあり、アメリカ合衆国の産業ロボットと自動化技術の市場は急速に拡大している。アメリカ合衆国がハノーバーメッセのパートナーカントリーとなることで、同国また世界中からロボット技術を求めるバイヤーが来場すると見込んでいる。

これはロボット技術や自動化技術を売りとする日本企業にとっては、自社の技術・製品を、アメリカ合衆国をはじめ海外の製造業関係者に知ってもらうまたとない機会になるだろう。

最後に、ハノーバーメッセには、世界100カ国・地域の一流企業や専門家が参加する。Industry4.0をはじめ、世界の産業界の最新技術・動向を一ヶ所で得られるところは他にはない。

「未来の工場への道はハノーバーに通ず——」

日本から多くの企業に出展ならびに来場いただくことを期待している。

ハノーバーメッセ2016 パートナーカントリー：アメリカ合衆国 大西洋を超えたパートナーシップの実現に向けて

ドイツメッセ株式会社 代表取締役
Dr. ヨッヘン・ケックラー

このたび、アメリカ合衆国がHANNOVER MESSE 2016のパートナーカントリーに決定した。ハノーバーメッセでは数年来、ビジネスサミットの開催や使節団の招聘などを行ってきたが、それらが功を奏した。

これにより、2016年のハノーバーメッセはさらに魅力的なものとなると確信している。オバマ大統領はアメリカ合衆国の国内産業を強化することに力を注いでおり、同国では製造業部門の近代化および製造プラントと設備のデジタル化による統合が急速に進んでいる。アメリカ合衆国政府の最終目的は再び世界有数の生産国としての地位を取り戻すことで、アメリカ合衆国がパートナーカントリーとなったことは必然的とも言えるだろう。

アメリカ合衆国がパートナーカントリーとして次回のハノーバーメッセで繰り広げるプログラムは、主として外国からの投資誘致とアメリカ合衆国の輸出増大に集約されている。

アメリカ合衆国をビジネスのしやすい国として紹介すること、さらに、競争力のあるトップレベルの製造業、すなわち質の高い製品を持つ国であるという名声を強化することが出展の目的となる。テーマの中心となるのは、エネルギー効率、エネルギーの獲得、最高水準の製造エンジニアリング、スマートテクノロジー、教育訓練、それに大西洋を超えたパートナーシップである。

駐米ドイツ大使のDr.ペーター・ヴィッティヒ（Peter Wittig）は、「大西洋を超えた取引関係発展のためにはハノーバーメッセは非常に重要である。アメリカ合衆国がパートナーカントリーになり、ハノーバーメッセでわれわれのビジネス関係を完全な形でプレゼンテーションすることにより、今後の発展を促進する機会となる。」と期待を述べている。

Deutsche Messe AG
ドイツメッセ株式会社

ドイツ・ハノーバーを本拠地とするドイツメッセ株式会社は、世界 10 大展示会運営企業 の一社で、世界最大の国際展示会会場を所有・運営しています。

2014年には世界各地で 134 の専門展示会と国際会議を企画・開催し、その出展企業の総数は41,000社、来場者数は計 360 万人にのぼっています。

運営する代表的な専門展示会には、CeBIT（情報通信）、HANNOVER MESSE（産業技術）、BIOTECHNICA（バイオテクノロジー）、CeMAT（インフラロジスティクス）、didacta（教育）、DOMOTEX（フロアカバリング）、INTERSCHUTZ（防災・安全）、LIGNA（木材加工・林業）など。100カ国・地域以上に 計 66 の代表事務所、子会社、支店を展開しています。

参考資料③

世界に広がる Industry4.0 / Integrated industry アメリカ合衆国、インド、中国、トルコの産業技術の動向

世界中で開催する国際産業技術専門展示会
www.hannovermesse.de/de/messe/hannover-messe-worldwide

「Industry 4.0」「Integrated Industry」「Industrial IoT」「Smart manufacturing」といった言葉が世界の産業界で飛び交っているが、最終目的は、自動化と情報処理技術を組み合わせて生産性を高めることに尽きるだろう。あるいは、アメリカ合衆国の非営利団体Smart Manufacturing Leadership Coalitionが提唱するように、これまでコストセンターであった工場をプロフィットセンターに変えることでもある。

ドイツとアメリカ合衆国はこの分野で世界のリーダーシップを取っているが、中国やトルコも大きな進展をみせており、インドは能力を上げている。

ドイツメッセでは、これらの国々で地域版ハノーバーメッセと言える産業技術展を開催している。これらの出展・来場の状況から見える、需要状況、傾向、課題や可能性について以下に紹介する。

製造業復活へ～アメリカ合衆国

アメリカ合衆国は今、海外での人件費・運送費の増大、国内でのエネルギーコストの低下といった理由で、生産拠点を自国内に戻そうとしている。2014年にシカゴの「IMTS - The International Manufacturing Technology Show」（主催：米国製造技術協会）と同時に開催された「INDUSRIAL AUTOMATION NORTH AMERICA」「MDA (Motion, Drive & Automation)NORTH AMERICA」（以上、主催：ドイツメッセ）といった一連の産業技術展では、この傾向にますます拍車がかかっていることが示された。

多くの出展企業は順応性、人間工学性、原料の効果的利用、顧客と企業の統合を目的とした製品やサービスを展示発表している。

主な出展企業は、Argo-Hytos, B&R Industrial Automation, Beckhoff Automation, Desch, Festo, FMC Hydraulic, Harting, HAWE Hydraulics, Lapp, Molex, Phoenix Contact, Rockwell Automation, THK, Universal Robots, Weidmüller, Wittensteinなど。

併設カンファレンス「Global Automation and Manufacturing Summit」「MDAカンファレンス」も行われた。

次回は、2016年9月12～17日にシカゴで5つの産業技術展示会が開催予定。

「ComVac NORTH AMERICA」「Industrial Automation NORTH AMERICA」

「Industrial Supply NORTH AMERICA」「MDA NORTH AMERICA」「Surface Technology NORTH AMERICA」

“Make in India”をアピール～インド

「Industry4.0」は間違いなくインドにも伝播している。モディ首相のリーダーシップにより、インドは世界クラスの生産国を目指している。インドの産業政策では、GDPを2022年までに16%から25%に上げることを目標にしている。世界的コンサルティング会社マッキンゼーはこの政策が順調に実行されればインドの製造部門は2025年までには6倍の6兆ドルに到達すると予想している。

インドは前回（2015年）ハノーバーメッセでパートナーカントリーとしてその能力を世界に向け披露したが、今年12月9～11日にニューデリーで開催されるハノーバーメッセのインド版「WIN(World of Industry)INDIA」でも同様のプレゼンテーションを予定している。

インド製造業において製品開発、品質管理、サプライチェーン・マネジメントが大きな経営課題になっていることを受け、WIN INDIAでは、最新の機械や装置の展示発表や、インドへの投資誘致を行う。さらに会場内に「Automation Application Park」を設置し、ものづくりの全工程を網羅した自動化技術のデモンストレーションを行う。

またドイツ機械工業連盟（VDMA）やインド工業自動化協会（Automation Industry Association）が、関連した技術フォーラムを開催する。

主な出展企業として、Beckhoff, Cascade, Delta, Godrej, Festo, Hercules Hoists, HIWIN, Iigus, Jungheinrich, Kelley Material Handling, Mitsubishi Electric, Pilz, Puma Pallet Trucks, Rittal, Schaeffler, Siemens, Veljan, Weidmuellerなど。

低コストから高付加価値へ戦略転換～中国

中国では、都市化により、様々な消費財とより良いインフラに対する需要が増え続けている。高騰する人件費と生産コストの増加、そして環境保護が大きな経営課題となっている。

成長を保持し競争力を失わないためには、中国は最新の生産技術、自動化技術、研究開発など、まさしく「Industry 4.0」を必要としている。実際に中国が推進する「Made in China 2025」はIndustry 4.0の影響を受けており、中国政府は中国を単純な作業台からイノベーションと高品質にあふれたものづくりに変換しようと、新興産業と中小企業向けに64億ドルの予算をあてている。

ハノーバーメッセの中国版「Industrial Automation BEIJIN」では、3Dプリント/積層造形法(additive manufacturing)、マシンビジョン、センサーとコネクタ、産業ロボット、自動制御などの製品・技術が紹介される。

中華人民共和国工業情報化部（Ministry of Industry and Information Technology）、科学技術部（Ministry of Science and Technology）、中国科学院（Chinese Academy of Science）、中国工程院（Chinese Academy of Engineering）により技術会議「International Intelligent Manufacturing Conference」が開催される。

主な出展企業として、Balluf, ELCO, EPLAN, GlaxoSmithKline, HARTING, HIWIN, IFM Electronic, Koyo, Phoenix Contact, Rittal, SANYO DENKI, TURCK, WAGO, Weidmüller, YASKAWAなど。

次回は、2016年5月11～13日に開催予定。

他に、深圳、上海で産業技術展を開催。

深圳：Industrial Automation SHENZHEN／2016年6月29日～7月1日

上海：PTC Asia（動力伝達、流体動力）、CeMAT Asia（インフラロジスティック）

ComVac Asia（圧縮空気・真空技術）、Industrial Supply ASIA／2015年10月27～30日

自動化とエネルギー効率の展望～トルコ

エコノミストらの試算によると、トルコの2017年までのGDPは年平均を5%である。製造業はトルコ経済のほぼ24%を支え最も重要な産業となっている。トルコはその戦略的な位置、広範囲な貿易関係、豊富な労働力、製造業に有利な政策により、成長が見込める国と位置づけられ、主に輸送とITインフラに大きな投資が行われている。

イスタンブールで毎年行われている産業技術展「WIN EURASIA Automation」は、世界中の企業と南ヨーロッパや中近東、北アフリカ、旧ソビエト連邦諸国を結びつけている。トルコやその近隣の国々は製造設備の技術向上を目標としており、WIN EURASIA Automationでは電子技術、マテハン、油圧空圧と並び、自動化とエネルギー効率がキーワードとなっている。

代表的な出展企業として、ABB, Argo-Hytos, Beckhoff, Bonfiglioli, Bosch Rexroth, FESTO, KUKA, Phoenix Contact, Jungheinrich, Kita Logistics, SSI Schaefer, STAUBLI, Trelleborgなどがある。また、ブルガリア、中国、イタリア、日本、韓国、アメリカ合衆国からは中小企業で構成されるパビリオンが設置された。

次回は、2016年3月17～20日に開催予定。

また、トルコでは急速に伸びるエネルギーの需要が課題となっており、この分野に関し、2023年まで1,300億ドルの投資が見込まれている。

イスタンブールで毎年行われているエネルギー・環境の技術展「ICCI-International Energy & Environment Fair and Conference」はエネルギーの自由化・再構築、エネルギー需要・供給に関するプロジェクト、EUのエネルギー政策、技術的なトピックスとしては熱電供給、エネルギー施設運営、環境テクノロジー分野のリサイクルシステム、再生エネルギー、廃棄物処理システムなどのテーマが取りあげられる。

次回は2016年5月27～29日に開催予定。

ハノーバーメッセ 2016 会期中取材に関するご案内

※会期中取材をご希望のプレスの方は、下記担当までご連絡ください。

プレス向けイベント

- ◆会場巡回ツアー（International Highlight Tour）：2016年4月24 日
- ◆最終プレスカンファレンス：2016年4月29 日

プレス登録： 2016年2月中旬以降、ドイツメッセ日本代表部にて登録受付予定

当日登録所： 4月24日（日）：プレスセンター（コンベンションセンターに隣接）
4月25日（月）～29日（金）：プレスセンター、会場北入口North 1、西入口West 1

プレスセンター開設時間：

4月24日（日）～ 28日（木）：8:00～19:30
4月29日（金）：8:00～17:00

※プレスセンターでは、ロッカールーム、コインロッカー（デポジット：10ユーロ）、ノートパソコン、インターネット、Wifi（無料）、ISDN、アナログ回線、FAXモデム（数量に限り有）を用意。また飲食スペース（ビストロバー、プレスクラブ）があります。

その他サービス：無料駐車場、無料シャトルバス

主催者からの情報提供：

- ◆ホームページ（<http://www.hannovermesse.de/en/info/for-journalists/press-releases/>）より提供
 - ドイツメッセ（株）発行のプレスリリース
 - 出展企業発行のプレスリリース
 - 写真提供サービス

- ◆プレスセンターで提供
 - プレスカンファレンスのスケジュール（毎日更新）
 - ドイツメッセ（株）発行のプレスリリース
 - 出展企業発行のプレスリリース
 - 出展企業リスト
 - 写真提供サービス

- ◆テレビ・ラジオの放送素材として、コピーライトフリーフィルム材料の無料提供があります。また、ホームページより記録ビデオのダウンロードが可能です。

www.hannovermesse.de/en/info/for-journalists/online-uebertragungen/

会期中の取材に関する問い合わせ先：

日本能率協会 ドイツメッセ日本代表部（担当：高間）
〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22
TEL：03-3434-6447 / FAX：03-3434-8076 E-mail：DMS@jma.or.jp

以上